奥出雲町の歴史や文化がわかる写真を募集します!

本町では現在、町の歴史が分かる古い写真の収集を進めています。移り変わる地域の昔の姿を伝える写真は、後世に残すべき郷土資料としてはもちろん、ふるさと教育等において深く地域を理解するための教材としても欠かすことのできない、貴重な“たから”です。

つきましては、写真をお持ちの方は、下記までご連絡ください。

募集期間　平成30年８月31日（金）まで

募集する写真について

おおむね昭和63年（1988年）以前の写真

募集する写真の例

・季節風景などの景観写真
・商工業などの産業写真
・祭りなどの伝統行事写真
・建築物や道路、鉄道などの施設写真
・誕生祝や結婚、葬儀などの人生通過儀礼写真
・その他、町の歴史がわかる写真

収集方法

提供者様とご相談させていただき、教育委員会職員がご指定いただいた場所にお伺いし、その場で複写させていただく方法や、一時的にお預かりして複写させていただいた後お返しさせていただく方法など、ご都合にあわせて柔軟に対応いたします。

収集した写真の用途（予定）

1）ふるさと教育や社会科など、本町の学校教育における使用
2）図書室やデジタルアーカイブなど、本町の社会教育における使用
3）文化祭や町文化協会が発行する冊子など、本町の文化活動における使用

【お問い合わせ先】
社会教育課　有線:20-4264
電話:52-2680　FAX:52-3048

ごみの分別方法の変更について

資源ごみ等の再資源化（リサイクル）のより一層の適正化を図るため、平成30年４月からごみの分別方法が一部変更になります。ご理解とご協力をお願いします。

○「プラスチック類」は 🅿 マークのあるものに限定
・🅿 マークの無いプラスチック製品は「燃えるごみ」へ。

○「空き缶」と「空きびん」は袋を分けてください
・収集日も別になります。

○ガラス類（空きびん以外）は「不燃ごみ」へ

○有害ごみ（「蛍光灯」、「乾電池類」）の分別を追加
・「蛍光灯」と「乾電池類」は袋を分けてください。（「不燃ごみ収集袋」を使用してください。）収集日に持ち出 していただくと回収します。
・乾電池類の公民館や役場の回収ボックスはこれまでどおり利用できます。

○ごみ収集カレンダーも変更になります
・「空きびん」と「ペットボトル」は隔月の収集になります。
・有害ごみの収集は第5週を利用して行います。

※詳しくは、ごみ分別チラシ「家庭ごみの分け方・出し方」をご覧ください。
（変更点については「下線表示」しています）
※変更のない部分もあらためてご確認いただき、適正な分別にご協力をお願いします。

【お問い合わせ先】
町民課　町民グループ
有線 31-5108　電話 54-2510

障害者手帳（身体・精神）をお持ちの皆さまへ

マイナンバーを使った情報連携に関するお知らせ

▶ マイナンバーは、国民の皆さま一人ひとりが持っている番号です。

▶ 市役所等の窓口で申請などをする際、この番号を使うと、市役所等が関係機関に問合せをするだけで、皆さまの手帳情報などを得ることができます。
この仕組みを「情報連携」といい、情報連携が可能になると、申請者が手帳のコピー等を提出する必要がなくなり、便利になります。

平成30年７月頃までは障害者手帳が必要です

▶ ただし、障害者手帳については、マイナンバーを使った「情報連携」が当面延期されており、平成30年7月頃までは、**これまでと同じく、障害者手帳のコピー添付等が必要です。**

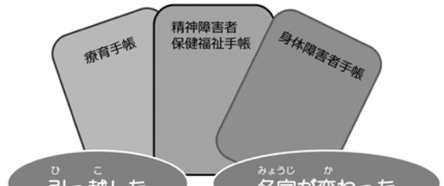
▶ 市役所等で申請を行う際は、**引き続き障害者手帳のご持参をお願いいたします。**

▶ **障害者手帳に書かれた住所・氏名等**が変わっても、市役所等で変更の手続きをしていない場合などは、平成30年７月以降も、**マイナンバーを使った情報連携が行えない可能性**があります。
お心当たりのある方は、お住まいの自治体の市役所等で手続してください。

厚生労働省

厚生労働省

お持ちの障害者手帳、ご確認ください。



こんな時、変更の届出が必要です

手帳に書かれた情報（住所、氏名など）が、現在のものと違うときは、お住まいの自治体へお知らせください。

マイナンバー制度との連携が始まります！

身体障害者手帳・精神障害者保健福祉手帳は、マイナンバーによる情報の連携が可能になります。変更の届出をすると、今後、各種手続の際、手帳の提出が不要になる場合があります。

▶ お問合せは、お住まいの市区町村の 障害福祉担当課 まで

横田高校

横田高校の活動をお知らせする「よここうコーナー」

平成29年度卒業証書授与式

3月1日、平成29年度卒業証書授与式を行いました。73名の卒業生がそれぞれの進路へ進む新たなスタートの日となりました。

卒業生入場

卒業証書授与

校歌斉唱

在校生代表送辞

卒業生代表答辞

地域おこし協力隊の現場を訪ねて

今回ご紹介するのは縁結び支援員の内田寿世隊員です。平成27年4月から縁結び支援員として活動を開始され、今月末で3年間の活動を終える予定です。本町で過ごした日々を振り返りながらお話を聞きました。

町内の縁結び支援団体の実施するイベントの広報活動等に協力しているという内田隊員。近隣市町村にチラシを配布したり、メールマガジンを配信したりしてイベントの情報発信を行っています。内田隊員が本町に来たとき、活動している縁結び支援団体は9団体でしたが、3年間の任期中に4団体増え、13団体になりました。

「活動を始めた当初は楽しく良いことばかりだと思っていましたが、婚活は人の気持ちが複雑に入り混じって意思疎通が難しく感じることもありました」と内田隊員。すぐには成果がでない分野で悩むこともあったそうです。ある日チラシを配布しているとき「幸せのお手伝いをしているのね」と声をかけられ、初心にかえることができたと話されます。参加者が、ご縁を見つけるのを楽しく応援する気持ちでイベントを支えてこられました。

また、若者の交流を目的にした「おとな食堂」を平成28年6月から「みんなの場所まつ」で開催。毎回12人程度の参加者が調理をしながらコミュニケーションを楽しむことができたそうです。また、昨年10月からエフエムいずものルーラル雲南のレポーターとして本町の魅力をお届けしています。次回4月19日(木)14時からの放送をぜひ聴いてみてください。

まもなく3年間の任期を終える内田隊員ですが、任期後も奥出雲町に残る予定です。「3年間があっという間でした。周囲の理解がある中で活動をすることができてよかった」と振り返りました。

▲3月24日に実施するイベントの打ち合わせ